

特集

第41回全国都道府県対抗 自転車競技大会

第41回全国都道府県対抗自転車競技大会(第62回国民体育大会自転車競技リハーサル大会)が、8月20日から22日にわたって開催され、本町に集まった全国各都道府県の代表選手がその力の限りを尽くしました。

秋田県勢の活躍

個人ロード・レース

体力、意思力、テクニック、スピードの総合力を競うロード・レース。今大会では、美郷町と大仙市を周回する1周37.4キロメートルの特設ロード・レース・コースで行われ、男子は3周回の112.2キロメートル、女子は2周回の74.8キロメートルで競われました。

ロード・レースが行われた20日は、午前9時のスタート時には気温30度を超える真夏日。この猛暑という過酷な状況下で、秋田県勢男子は守澤太志選手の優勝をはじめ出場選手3人全員が入賞を果たしました。



仏沢公園付近の補給所手前の上り坂にさしかかる選手(男子1周目)



トップでゴールする守澤選手

○ロード・レース 男子(本県選手の結果)

順位	選手名(所属)	タイム
第1位	守澤 太志(明治大学)	2時間44分42秒
第4位	根本 哲吏(同)	2時間47分26秒
第6位	井上 卓(同)	2時間47分26秒



サテライト六郷で行われたロード・レース表彰式

ロード・レースの出場選手には、長い距離を走破できる持久力や上り坂を速いスピードで登る登坂力、下り坂を駆け降りるダウンヒルやカーブを走り抜けるコーナリングのテクニック、またゴール間際で最後の力を振り絞るゴールスプリントなど、多くの要素をクリアすることが要求される。



成年男子30kmポイント・レース決勝(写真中央・ホーム前を通過する守澤選手)

ポイント・レース

レース中に設けられている、得点地点の通過順位により与えられる得点の合計点で順位が競われます。

タイム・トライアル

1キロメートルをいかに早く走りきるかを競うもので、自転車競技の中でも最も基本的な種目であり「自己との戦い」とも称されます。

チーム・スプリント

1チーム3人の競技者で構成され、2つのチームがホームとバックの中央線から同時にスタートして、競技場の周長に関係なく3周回で競われます。団体追抜競走のような先頭交代は行われず、3人の競技者が1列になって走り、1周ごとに先頭の選手がコースの外側に外れてゆき、3人目の競技者が3周を走りきったゴールタイムで順位が競われます。

本県選手の結果

○ポイント・レース 成年男子

順位	選手名(所属)	得点
第1位	守澤 太志(明治大学)	44点

○タイム・トライアル 少年男子

順位	選手名(所属)	タイム
第2位	田口 守(六郷高校)	1分08秒344

○チーム・スプリント

順位	氏名(所属)	タイム
第2位	田口 守(六郷高校) 山崎功也(能代西高校) 石川雄太(大曲農業高校)	1分05秒530



男子チーム・スプリント(スタート直前の本県チーム)

ボランティア・高校生の皆さんも活躍

今回開催された大会は、来年開催される第62回国民体育大会のリハーサル大会として、多くのボランティアの皆さんのご協力により運営されました。



選手に弁当を手渡すボランティアの皆さん



受付案内係を務める高校生の皆さん



総合優勝を決めた本県チーム

本県チームが総合優勝
男子各種目の得点の合計で争う総合では、本県チームが総合優勝(総得点52点)を勝ち取りました。